

「ともに考える医療」 シンポジウム

(科研費 “ともに考える医療”のための新たな患者-医療者関係構築を目的とした実証・事業研究 研究成果発表会)

科研費 基盤研究(A)事業 “ともに考える医療”のための新たな患者-医療者関係構築を目的とした実証・事業研究(主任研究者 東京医療センター 尾藤誠司)では、患者さんと医療者が健康についてともに考え、相互理解と歩み寄りを目指すための新たなコミュニケーションモデルの構築を目的として、平成20年度より4年間の研究事業を展開してまいりました。本シンポジウムでは、4年間の研究成果について分担研究者からの発表を行うとともに、出席者の皆さんと今の医療、そしてこれからの医療に必要なものとそのための行動について考える機会としたいと思います。

主催	“ともに考える医療”のための 新たな患者-医療者関係構築を目的とした実証・事業研究 研究班
日時	2011年11月27日(日) 午前10時-午後4時30分 (開場:午前9時45分)
会場	立教大学 池袋キャンパス 14号館 D201教室 (〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1)
入場	無料
アクセス	JR各線・東武東上線・西武池袋線・東京メトロ丸ノ内線/有楽町線 副都心線「池袋駅」下車。西口より徒歩約7分。

アクセスMAP



発表次第

分担研究成果発表

- 10:00-10:45 はじめに
- 10:45-12:00 研究成果1:情報は共有されているのか?共有できるのか?(6演題発表)
- 13:10-14:00 研究成果2:価値は共有されているのか?共有できるのか?(4演題発表)
- 14:00-15:00 研究成果3:「ともに考える医療」に向けた方略(5演題発表)

パネルディスカッション

- 15:15-16:15 “相互理解と相互信頼にむけて何が必要か?何をすべきか?”
～パネリスト～
- 山口育子さん (NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長)
 - 坂下裕子さん (子ども遺族の会「小さないのち」代表)
 - 松村真司さん (松村医院 院長)
 - 上野 創さん (患者経験のある元記者)
 - 中島美津子さん (総合東京病院 総看護師長)

後援

公益財団法人 日本医療機能評価機構
NPO法人 卒後臨床研修評価機構
日本生命倫理学会
社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会

医療の質・安全学会
American College of Physicians 日本支部
一般社団法人 日本医学教育学会
医療メディエーション研究会「架け橋」

研究者一覧

代表研究者: 尾藤誠司 (国立病院機構東京医療センター 臨床疫学研究室長・臨床研修科医長)
分担研究者: 浅井 篤 (熊本大学大学院生命科学研究部 教授) 大西弘高 (東京大学医学教育国際協力研究センター 講師)
大生定義 (立教大学社会学部 教授) 竹村洋典 (三重大学大学院医学系研究科 教授) 野村英樹 (金沢大学附属病院 准教授)

開催案内 「ともに考える医療」シンポジウム

(科研費 “ともに考える医療”のための新たな患者-医療者関係構築を目的とした実証・事業研究 研究成果発表会)

わが国の患者-医療者関係は、近年大きく変わりつつあります。かつて、医師に代表される医療者が主導的に診療方針を決めていく「おまかせ型」の医療提供のあり方は、“パターナリズム（家父長主義）”としてしばしば批判の対象となり、患者の権利の尊重やインフォームド・コンセントの重要さが認識されるようになりました。同時に、医療技術の発達や情報技術の発達とともに、医療に関する意思決定はどんどん複雑なものになっています。そのような変化の中で、患者の利益に基づいた医療を患者自身も医療者側も希求するにもかかわらず、現代の患者-医療者関係は、本来の医療の目的からむしろ遠ざかりつつあるようにも映ります。医療者の紛争リスク回避を第一とするような行動様式や、免責を主な目的とする病状説明と同意文書へのサイン、救急医療へのニーズが医療の供給量を大幅にうまわることによる医療者の疲弊等はその象徴的な事象であるといえます。

我々は、患者にとって最善の利益について、ともに考え、相互理解と歩み寄りを目指すための新たなコミュニケーションモデルの構築と検証が急務であると考え、平成20年度より文部省科学研究費補助金 基盤研究（A）事業 “ともに考える医療”のための新たな患者-医療者関係構築を目的とした実証・事業研究を開始しました（別添資料をご参照ください）。当研究事業では、代表研究者および5名の分担研究者を中心に、調査研究はもとより、教育事業やキャンペーン事業など、さまざまな研究事業を行ってまいりました。当年度は本研究事業最終年度であり、我々が行ってきた研究成果を、多くの皆様に紹介させていただくとともに、未来のあるべき患者-医療者関係の姿や、それに向けてどのような行動が必要なのかについて、「ともに考える」機会を設けたいと我々は考えました。

主催：“ともに考える医療”のための新たな患者-医療者関係構築を目的とした実証・事業研究 研究班

後援：公益財団法人 日本医療機能評価機構、一般社団法人 日本医学教育学会、NPO 法人 卒後臨床研修評価機構、日本生命倫理学会、社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会、医療の質・安全学会、American College of Physicians 日本支部、医療メディエーション研究会「架け橋」

- ・ 研究者一覧
 - 代表研究者：尾藤誠司（国立病院機構東京医療センター 臨床疫学研究室長・臨床研修科医長）
 - 分担研究者：浅井 篤（熊本大学大学院 生命科学研究部 教授）、大西弘高（東京大学医学教育国際協力研究センター 講師）、大生定義（立教大学社会学部 教授）、竹村洋典（三重大学大学院医学系研究科 教授）、野村英樹（金沢大学附属病院 准教授）
- ・ シンポジウム開催の目的
 - 本シンポジウムの前半では、「ともに考える医療」の姿を希求し我々が分担研究事業として行ってきた研究事業の成果について、研究実施担当者の口演の形式で発表させていただきたいと存じます。後半には、本趣意に関連し活動を行っていらっしゃる方々をゲストにお招きしつつ、今後の患者-医療者関係の在り方や、今後の変化のために今患者・医療者に何ができるか等についてのディスカッションを行いたいと考えています。
- ・ シンポジウムの日程・場所
 - 日時：2011年11月27日（日） 午前10時-午後4時30分（開場：午前9時45分）
 - 会場：立教大学 池袋キャンパス 14号館 D201教室（〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1）
 - 入場料：無料

「ともに考える医療」シンポジウム 進行表

10:00-10:45

- ・ あいさつ：松本純夫 東京医療センター院長
- ・ はじめに：「ともに考える医療」プロジェクトの背景
 - 主任研究者よりあいさつ“研究の背景” 尾藤（15分）
 - 患者-医療者間のコミュニケーションの問題点 山口育子さん（15分）

10:45-12:00

- ・ 研究成果1：情報は共有されているのか？共有できるのか？
 - 医療の公共性に対する、患者・一般生活者および医師の認識を比較する（野村 10分）
 - 相互信頼促進のできる医療者を教育するための手法（大西 15分）
 - 疑義照会場面を通して医師と薬剤師間のコミュニケーションを考える研究（飯岡 10分）
 - 説明の構造に関する研究（黒沢 10分）
 - 患者の不安や抑うつ気分を明らかにする医療面接（竹村 7分）
 - 「患者中心の医療」が本当に健康に良い影響を与えるのか？（竹村 8分）

昼休憩 12:10-13:10

13:10-14:00

- ・ 研究成果2：価値は共有されているのか？共有できるのか？
 - 無益性についての調査（門岡 10分）
 - 医療の原則と価値を明らかにする対話研究（會澤 10分）
 - 主治医制度の功罪（金城・錦織 10分）
 - 患者・一般生活者の医師への信頼の構造に関する研究（野村 10分）

14:00-15:00

- ・ 研究成果3：「ともに考える医療」に向けた方略
 - とともに考える医療 説明文書プロジェクト（野呂 10分）
 - とともに考えるための臨床倫理チェックリスト（浅井 10分）
 - とともに考えるIC（尾藤 10分）
 - 臨床倫理相談プロジェクト（長尾 10分）
 - 「もはヒポ」プロジェクト（尾藤 10分）

休憩 15:00-15:10

15:15-16:15

- ・ パネルディスカッション（60分） 司会 大生
 - パネリスト
 - ◇ 山口育子さん（NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長）
 - ◇ 坂下裕子さん（こども遺族の会「小さないのち」代表）
 - ◇ 松村真司さん（松村医院 院長）
 - ◇ 上野 創さん（患者経験のある元記者）
 - ◇ 中島美津子さん（総合東京病院 総看護師長）
- ・ 閉会の言葉 尾藤 10分 >> 閉会 16:30